

# 明星大学理工学部総合理工学科の設置の趣旨

## < 目 次 >

・設置の趣旨及び必要性	
1．明星大学の教育目標と教育内容及び教育方法	1
2．理工学部総合理工学科の設置の趣旨及び必要性	1
3．養成する人材像と就職先の見通し	2
・学部・学科の特色	3
・学科名称及び学位の名称	
1．学科名称及び学位に付記する専攻分野の名称とその理由	3
2．学部・学科名称と学位の表記	4
・教育課程の編成の考え方及び特色	
1．総合理工学科の教育課程編成の基本的な考え方	4
2．総合理工学科における学科科目の教育課程編成の特色	5
・教員組織の編成の考え方及び特色	
1．教員組編成の基本的考え方	7
2．教員組織の特色	7
・教育方法・履修指導方法及び卒業要件	
1．教育方法	8
2．履修指導	9
3．卒業要件	9
4．履修モデル	10
・免許・資格等	11
・施設・設備等の整備計画	
1．校地、運動場の整備計画	12
2．校舎等施設の整備計画	12
3．図書等の資料及び図書館の整備計画	12
・入学者選抜の概要	
1．アドミッション・ポリシー	15
2．選抜方法と内容	15
・管理運営の考え方	17
・自己点検・評価	
1．自己点検・評価の取り組み	19
2．自己点検・評価の実施体制	19
3．認証評価（学校教育法第109条2項への対応）	20
4．改善活動への取り組み	20
・情報の提供	21
・授業内容方法の改善をはかるための組織的な取り組み	22

# 明星大学理工学部総合理工学科の設置の趣旨

## ・設置の趣旨及び必要性

### 1．明星大学の教育目標と教育内容及び教育方法

「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を建学の精神とする学校法人明星学苑が、その理念を高等教育の場を通して実現するために設立したのが明星大学である。明星大学は、設立母体である明星学苑の建学の精神に則り「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」を教育目標とし、この目標を大学における教育研究を通して実現するために設立された。

明星大学のこの教育目標は、以下の教育内容と教育方法をもって達成される。

- (1) 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- (2) 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- (3) 心と体の健康管理の教育
- (4) 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- (5) 生涯に亘る学習意欲の獲得と、自らの歴史を綴ることが出来るようにする教育

大学の教育目標に則したこれらの教育内容と教育方法は、高等教育の特質である高度に分科した各専門分野における教育研究活動を通して具体化され得る。そこで、本学は人文学、理工学、情報学、経済学、造形芸術、教育学における教育研究活動を通して、教育目標を実現化しようとするものである。

### 2．理工学部総合理工学科の設置の趣旨及び必要性

理工学部は本学の「教育目標」を科学技術の世界で活躍する人材を育成することによって実現化するため、「科学する心を持った道義心の強い技術者の育成」を設置の理念・目的として、1964（昭和39）年の開設以来、45年以上に亘り主に産業界に有為な人材を輩出してきた。

現行理工学部は、物理学科及び化学科の理学系と、機械システム工学科、電気電子システム工学科、建築学科及び環境システム学科の工学系の計6学科で構成されており、各学科固有の専門性に沿った教育研究を通して、各々に応じた人材養成を行ってきた。

しかしながら、近年の科学技術の進歩の速さと、それに即応する産業界は、必ずしも学科固有の専門性に偏らない、理工学分野に関する幅広い知識を持ち、多角的な科学的・論理的思考力を身につけ、社会の変化に柔軟に対応できる人材を必要とするようになった。

本学理工学部は、こうした社会の変化と産業界の人材需要に対応するため、現行の6学科を発展的に統合し、物理学と化学、機械工学と電気・電子工学、建築学と環境学等が相互に融合（inter disciplinary approach）し、多角的かつ柔軟な思考力と技術力とを修得できることが可能となるようにするため、総合理工学科を設置する。

このことにより、従来 of 学科の「壁」をより低くし、柔軟な教育システムを構築することによって、理学と工学の知識と技術を身につけた、技術立国日本を支える理工系技術者・科

学者として理工学に係る「幅広い職業人」を育成する。

また、上記の人材養成の目的に則して、総合理工学科は、現行各学科の教育課程を理学系学問領域と工学系学問領域に再編し、各領域の下に、履修モデルとしての学系を設ける。理学領域及び工学領域の下に置かれる各学系と各々の教育研究の目的は、以下の通りである。

#### (1) 理学領域

理学領域の学系には、物理学系と生命科学・化学系を設ける。

物理学系では、基礎物理、数理学、天文学などの物理学に関する知識を、講義のほか多様な実験とプロジェクト活動等を通して学ぶことにより、多角的な科学的・論理的思考力を修得させる。

生命科学・化学系では、生物学、分子化学及び環境化学に関する知識と技術を、講義のほか多様な実験とプロジェクト活動等を通して学ぶことにより、多角的な科学的・論理的思考力を修得させる。

#### (2) 工学領域

工学領域の学系には、機械工学系、電気電子工学系、建築学系及び環境・生態学系の学系を設ける。

機械工学系は、機械工学に関する知識と技術を、講義のほか多様な実験とプロジェクト活動等を通して学ぶことにより、多角的な科学的・論理的思考力を修得させる。

電気電子工学系は、電気電子工学及び情報工学に関する知識と技術を、講義のほか多様な実験とプロジェクト活動等を通して学ぶことにより、多角的な科学的・論理的思考力を修得させる。

建築学系は、建築に係わるデザイン、材料、構造、施工等の知識と技術を、講義のほか多様な実験とプロジェクト活動等を通して学ぶことにより、多角的な科学的・論理的思考力を修得させる。

環境・生態学系は、地球環境、都市環境、生態・資源、環境化学に関する知識と技術を、講義のほか多様な実験とプロジェクト活動等を通して学ぶことにより、多角的な科学的・論理的思考力を修得させる。

以上の履修モデルとしての各学系における教育研究活動と、「観察」と「ものづくり」を教育目標とする学系横断的な体験的活動を中心としたプロジェクト科目等における教育研究活動を通して、学系固有の専門性と理工学に関する幅広い知識・技術を兼ね備えた人材を育成することを総合理工学科の教育研究上の目的とする。

### 3. 養成する人材像と就職先の見通し

本学科では、日本のみならず国際社会で活躍できるよう、前述の通り、各領域・各学系の専門性を担保しつつ従来の学科の枠を取り払い、学問分野にとらわれない理工学の知識が得られる学習及び実体験の機会を創出することにより、実社会において必要な学士力（多文化理解、コミュニケーションスキル、論理的思考力、問題解決力、実践力、社会的責任能力）と理工学に関する幅広い基礎専門知識を有した人材、さらには、学んだ知識などを総合的に活用し、問題発見そして自らが立てた課題を解決する能力を養成する。その結果、幅広い教養を身につけた自ら考え自ら行動できる理工系職業人（技術者、科学者、教育者）を育成する。

卒業後の就職先としては、各学系の専門性に則した、機器製造業、情報処理産業、電気・機械メーカー、化学・製薬・食品メーカーの技術職や研究職、臨床試験、環境、農林水産などの企業のみならず、本学科の特色をいかした各学系の分野にとらわれない幅広い分野の企業を就職先とすることが期待される。

また、従来と同様に中学校・高等学校の「理科」「数学」「工業」の教員免許状取得課程を設けることから、教育者としての活躍も期待される。

## ・学部・学科の特色

Inter disciplinary なアプローチを旨とする総合理工学科は、第 1 に、学系を融合した学科共通科目そして学系横断型の実験実習及びプロジェクト科目、さらに各学系の専門分野においても体験教育を通じて学生の知的好奇心を刺激する教育（学ぶ意欲に火をつけるための教育）を行うことを特色としている。

第 2 に、社会の変化に柔軟に対応できる人材を求める産業界の人材需要に応えるため、理学と工学、「観察」と「ものづくり」を融合した理工学に関する総合的な教育研究を通して、理工学分野に関する幅広い知識を持ち、多角的な科学的・論理的思考力を身につけた「幅広い職業人」の育成を行うことを特色としている。

第 3 に、地域の活性化に寄与するため、地域社会との連携、教員の専門性を活かした産業界との連携、社会への還元・普及を図る基礎から応用までの研究、その研究成果の世界への発信、国際学术交流・共同研究や留学生受け入れなどの国際交流に努め、さらには地域社会や卒業生のために生涯学習の機会を与える拠点としての活動も行い、社会的貢献を推進していくことを特色としている。

## ・学科名称及び学位の名称

### 1. 学科名称及び学位に付記する専攻分野の名称とその理由

本学科は、現行の 6 学科の教育課程を継承しながら理学系学問領域と工学系学問領域に再編した上で、その中に履修モデルとしての学系を設ける。このような教育課程を通して理学・工学を融合した理工学に関する総合的な教育研究を行うことから、学科名称を「総合理工学科」とする。

また、学位名称については、学系毎に定められた履修モデルに従い単位を取得するとともに、4 年次の卒業研究において学系固有の分野の研究を行うことで、学系固有の専門性を担保できることから、理学領域の学系には「学士（理学）」を、工学系領域の学系には「学士（工学）」の専攻分野の名称をそれぞれ付記する。

## 2. 学部・学科名称と学位の表記

### (1) 学部名称

理工学部 School of Science and Engineering

### (2) 学科の名称

総合理工学科 Department of Interdisciplinary Science and Engineering

### (3) 学位の表記と学系名称

理学領域：学士（理学） Bachelor of Art in Science

工学領域：学士（工学） Bachelor of Art in Engineering

## ・教育課程の編成の考え方及び特色

### 1. 総合理工学科の教育課程編成の基本的な考え方

明星大学の「教育目標」を達成するための「教育内容と教育方法」を具体的に実現するため、教育課程を次のような科目群を持って構成する。

#### (1) 全学共通科目

#### (2) 学科科目

#### (3) 全学共通教職・資格科目

これらの科目群を有機的に組み合わせ「科学する心を持った道義心の強い技術者の育成」を目指す「カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)」とする。

#### (1) 全学共通科目

「全学共通科目」は、本学全学生が学部・学科の所属をこえて学修させるため設ける科目群である。その教育目標は、本学の教育目標を実現化していくための教育内容である「現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得、幅広い教養を身につけた自立する市民の育成、心と体の健康管理の教育等」の構成を踏まえ、人間を考える、言葉とコミュニケーション、歴史と文化を知り、創る、社会の営みを理解する、自然と科学を理解する、の5つのテーマに区分して科目群を設置する。

人間を考えるには、「心と体の健康管理の教育」としての『健康・スポーツ科学論（必修2単位）』『健康・スポーツ演習1（必修1単位）』『哲学1・2』『心理学1・2』等、言葉とコミュニケーションには、「現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本知識と技能の習得」を目指す『情報リテラシーa・b（必修4単位）』『外国語科目（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）1・2・3・4（選択必修8単位）』等、歴史と文化を知り、創る、社会の営みを理解する、自然と科学を理解する、のそれぞれには、「幅広い教養を身につけた自立する市民の育成」を目指す科目として、『日本事情1・2』『西洋の歴史と文化1・2』『国際関係論1・2』『ボランティア論』『地球惑星学1・2』『人類と環境』等を設置し、学科の違いをこえて必要となる基礎的知識や技術を幅広く身につけることを目標とする。

また、「自己実現を目指す」第一歩であり、かつ初年次教育の中核として、高校生から大学生への学習・生活へとスムーズな移行を支援する科目として『自立と体験1（必修2単位）』を設置する。

## (2) 学科科目

「学科科目」は、学科固有の専門科目を学修させるために設ける科目群であり、理工学部の教育目標である「科学する心をもった道義心の強い技術者の育成」を実現するため、総合理工学科のカリキュラム・ポリシーである「学ぶ意欲に火をつける体験学習を通じて理工学基礎教育を提供する。」及び「問題を発見し、解決できる実践力を身につける専門教育を提供する。」に基づき、初年次教育から各学系の専門教育までの教育課程を体系的に構築する。

具体的には理工学に関する基礎専門科目や各学系の専門性を融合し、「観察」と「ものづくり」を教育目標とする科目を配置するため「学科共通科目」群を設け、その中を「導入科目」「基礎科学科目」「プロジェクト科目」「理工実験実習」「キャリア教育科目」に区分する。また、各学系に直接関係する学系専門科目については、「理学領域科目」・「工学領域科目」と大別したうえで、その中で学系別に「学系基礎科目」「学系応用科目」に区分し、体系的に科目を配置する。

学科科目は、後述の通り各々の理工学に関する学系横断的な基礎知識や研究の方法を習得することを目指す「必修科目」及び学系固有の専門性を担保するための「選択必修科目」を設定するとともに、学生一人ひとりの知的興味や関心に応じた学習が可能になるように充実した「選択科目」を開設する。さらに、学生が4年間にわたる学修の集大成を行う科目として『卒業研究』を設ける。

## (3) 全学共通教職・資格科目

「全学共通教職・資格科目」は、個々の学生の職業的興味と関心に応え、また、「幅広い職業人の育成」という目標を達成するために、教育職員免許科目等の資格取得が可能となるため設ける科目群である。

## 2. 総合理工学科における学科科目の教育課程編成の特色

総合理工学科の教育課程の特色は以下の通りである。

### (1) 学科共通科目の特色

学系共通科目は、各学系の専門分野についての基礎を相互に学ぶとともに、学系融合科目により理工学を学ぶ学生に理工学の基礎的な素養を習得させる。

基礎学力の徹底を図るため、初年次教育においては学系を横断して、数学、物理、化学に関する高校補習の「導入前科目」と、専門分野への基礎となる『基礎代数学』や『基礎解析学』等の「基礎科学科目」により、徹底した繰り返し学習を行う。

また、全学共通科目の初年次教育として、学部・学科等の縦割りの枠をこえて自己理解や学習意欲の向上を図るための『自立と体験1』の開設に併せ、本学科においても、「キャリア教育科目」として高等学校等からの円滑な移行を図り、これから大学で学ぶ意義について体験する『自立と体験2』を開設する。

理工学の基本に対する興味を早期に誘起するため、初年次教育において学系を横断した『理工実験実習』及び『プロジェクト』などの科目を設け、学生に“学ぶ意欲に火をつけるための教育”プログラムを実施する。

各学系専門分野への興味を喚起するため、2～3年次教育においては、『プロジェクト～』、『インターンシップ』などの実体験科目を通じた体験教育プログラムの充実

を図り、幅広い基礎専門知識を養成し、ジェネラルエンジニアリングの素養を身につけさせる。

卒業する学生の専門性と質を保証するため、4年次教育においては『卒業研究』を通じて徹底した専門教育のまとめとそれに基づく新たな創造展開手法を身につけさせる。

## (2) 学系専門科目

学系専門科目では、各学系の専門分野について、基礎から応用までを学系ごとに学ぶとともに、学系間で関連する科目についてはその履修が可能になるようにし、幅広い専門の素養を身につける。

理学領域の「物理学系」では、学系のカリキュラム・ポリシーである「物理学、数理学の基礎的な知識を学び、その後、興味ある分野を選択し、さらに専門性の高い研究へと進む」に基づき、基礎科目である『基礎力学』、『基礎電磁気学』、『解析力学』、『電磁気学』、『量子力学』及び応用科目である『統計熱力学』などを学系選択必修科目とするとともに、基礎物理分野、宇宙天文分野、数理科学分野に関する学系専門科目として、基礎科目18科目(36単位)、応用科目25科目(50単位)を体系的に設置する。

「生命科学・化学系」では、学系のカリキュラム・ポリシーである「化学の基礎をしっかりと学んだ後、分子化学や生命科学への展開ができる知識と能力を身につけて、学生の能力を最大限に伸ばす教育・研究を实践する」に基づき、生命科学及び化学分野の基幹となる『基礎物理化学』、『基礎無機化学』、『基礎分析化学』、『基礎有機化学』、『物理化学』、『分析化学』、『有機化学』、『無機化学』、『生化学』、『細胞生物学』、『分子生物学』及び『化学・生命科学実験～』を学系選択必修科目とするとともに、生命科学分野、分子化学分野に関する学系専門科目として、基礎科目12科目(24単位)、応用科目30科目(62単位)を体系的に設置する。

工学領域の「機械工学系」では、学系のカリキュラム・ポリシーである「機械工学の基礎教育に力を入れ、ものづくりで社会に貢献できる技能と技術を学ぶ」に基づき、機械工学の根幹である4力学に関する『熱力学』、『材料の強さ』、『流れ学』、『機械力学』及び『ものづくり』、『機械工学系基礎実験』、『機械製図』、『機械加工学』、『3D-CAD』等の科目を学系選択必修科目とするとともに、「ものづくり」や機械設計等に関する学系専門科目として、基礎科目18科目(36単位)、応用科目16科目(31単位)を体系的に設置する。

「電気電子工学系」では、学系のカリキュラム・ポリシーである「やったことをほめて育てる(褒育)・励まして生かす(励生)・教員も学生から学ぶ(共学)」に基づき、電気電子工学に関する実験科目である『電気電子実験』、『情報通信実験』、『電力電子実験』を学系選択必修科目とするとともに、電力電子分野、情報通信分野に関する学系専門科目として、基礎科目18科目(35単位)、応用科目26科目(47単位)を体系的に設置する。

「建築学系」では、学系のカリキュラム・ポリシーである「体験的・実習的な教育研究による学習意欲の向上・学生個々の資質を活かす教育による専門技術の修得・実践的教育研究による自己実現と社会貢献ができる技術者の養成」に基づき、『意匠・デッサン実習』、『住宅論』、『建築設計製図』、『建築計画』、『日本建築史』、『西洋建築史』、『建築環境学

『建築設備』『建築構造力学』『建築材料学』等の基礎科目及び『建築構造解析』『建築施工管理』『建築法規』『建築構法』等の応用科目を学系選択必修科目とするとともに、「計画・デザイン・環境」分野、「材料・構造・施工」分野等に関する学系専門科目として、基礎科目 21 科目（41 単位）、応用科目 20 科目（40 単位）を体系的に設置する。

「環境・生態学系」では、カリキュラム・ポリシーである「学系学習・教育目標（地球的視点に立った環境認識、人格形成、必要な基礎学力、環境専門家に必要な学力と専門知識、問題解決力、社会対応力、自主学習能力、実践対応力、E-ECOSHIP）の達成」に基づき、『環境基礎ゼミ』『基礎環境学』『基礎環境化学』『都市環境計画』『気象・熱環境学』『環境微生物学』『水・土壌環境学』『廃棄物学』『大気環境学』『環境情報処理』『環境アセスメント』等を学系選択必修科目とするとともに、地球環境分野、都市環境分野、生態・資源分野、環境化学分野に関する学系専門科目として基礎科目 16 科目（31 単位）、応用科目 24 科目（46 単位）を体系的に設置する。

以上の教育課程編成方針に基づく概念図及び教育課程は【資料 1】及び【資料 2】の通りである。

## ・教員組織の編成の考え方及び特色

### 1．教員組織編成の基本的考え方

総合理工学科は教育研究の質を保証するため、十分な数の教員を確保するとともに、必要不可欠な専門分野の教員をバランスよく配置した教員組織を編成する。

総合理工学科は、現行の 6 学科（物理学科、化学科、機械システム工学科、電気電子システム工学科、建築学科、環境システム学科）の教育研究活動を継承しながら、発展的に統合したものである。教員組織については現在所属している学科にとらわれることなく、所属教員全体で総合理工学科の教育課程の運営にあたりながら、個々の教員の専門領域に関する研究活動を継続することから、本学科の教育研究活動に必要な教員数は確保されている。

### 2．教員組織の特色

#### （1）教員の専門分野

理学領域	： 15 名（教授 6 名、准教授 8 名、講師 1 名）
物理学系	： 6 名（教授 2 名、准教授 4 名） 基礎物理学分野、宇宙天文学分野、数理分野等
生命科学・化学系	： 9 名（教授 4 名、准教授 4 名、講師 1 名） 生命科学分野、分子科学分野等
工学領域	： 37 名（教授 26 名、准教授 9 名、講師 2 名）
機械工学系	： 8 名（教授 5 名、准教授 3 名、講師 0 名） 4 力学分野（ロボット・自動車・鉄道・IT 等）などの研究等）
電気電子工学系	： 9 名（教授 7 名、准教授 1 名、講師 1 名） エネルギー分野、エレクトロニクス分野、情報通信分野等
建築学系	： 11 名（教授 8 名、准教授 2 名、講師 1 名）

計画・デザイン・環境分野、材料・構造・施工分野等  
環境・生態学系 : 9名(教授6名、准教授3名、講師0名)  
地球環境分野・都市環境分野、生態・資源分野、環境化学分野等

## (2) 専任教員の構成

総合理工学科の完成年度(平成25年4月1日)時点の専任教員数は以下の通りである。

### (職位別教員数)

教授 32名(40代6名、50代8名、60代18名)

准教授 17名(30代2名、40代10名、50代1名、60代4名)

専任講師 3名(30代1名、50代2名)である。

### (保有学位別教員数)

博士 43名(30代3名、40代15名、50代8名、60代17名)

修士 8名(40代1名、50代2名、60代5名)

学士 1名(50代1名)

## (3) 適切な担当科目数

本学科の入学定員は400名であり、それに対して52名の学科教員を配置することによって、少人数教育の実現など、より質の高い教育研究を実現することを可能とする。すべての学科教員が、学科教育の中核的科目を担当しながらも、きめ細かい教育及び学生指導を実施し、同時に充実した研究水準を維持する見通しである。

本学科の教員組織の職位別年齢構成表は【資料3】の通りである。

## ・教育方法・履修指導方法及び卒業要件

### 1. 教育方法

総合理工学科では、「科学する心を持った道義心の強い技術者の育成」を目指し、カリキュラム・ポリシーである「学ぶ意欲に火をつける体験学習を通じて理工学基礎教育を提供する。」及び「問題を発見し、解決できる実践力を身につける専門教育を提供する。」に基づき少人数教育、体験学習、双方向型教育に重点をおいて教育を行う。

授業方法としては、講義、演習、実験・実習、及びプロジェクトに分けられ、それぞれの授業のクラスサイズは、講義科目においては1クラス60名程度、実験・実習・演習科目においては、授業内容に即した人数に班分するが、概ね1クラス30名程度、また、プロジェクト科目やゼミ科目については、1教員あたり10~15名程度の少人数教育を実施する。

このように、授業形態にかかわらず少人数教育を行うことで、実験・実習・演習科目と同様に、講義科目においても、教員からの一方的な講義ばかりでなく、学生との対話・討議を行う双方向型の授業を積極的に展開する。一例を挙げれば、各講義室に設置されているマルチメディア機器を活用し、多角的な講義を進めながら、授業内テストや課題レポートなどを通じて、学生の理解度を確認しながら講義を進めることで、学生の学習意欲を増す(学ぶ意欲に火をつける)ことが可能となる。

また、学科共通科目に設けている、プロジェクト科目や実験・実習科目において、学系横

断的なテーマに取り組むことで、理工学に幅広い基礎専門知識を、体験学習を通して養成することができる。

なお、本学科は、授業科目を全て半期科目として設置することで、学生の学修の質の向上を図る。

## 2．履修指導

本学科では、豊富な教員組織を活用し、学生の学習の継続を確たるものにし、組織への帰属意識を明確にするため、全ての学年においてクラス担任制をとりうる科目を設置し、全教員が概ね 15 名程度の学生を担当する担任制度を設ける。

履修指導は、新入生に対しては、入学時の学科新入生オリエンテーションや履修ガイダンスにおいて、履修モデル等の具体例を示しながら全般的な説明を行い、個別的な学生指導は担当教員と学部事務室の職員が連携して行う。

学生と教員の密接な関係を維持するため、原則として同一教員が 3 年間担任を務め、その後は卒業研究担当教員が引き継ぐ。

クラス担任の役割は履修指導や教育に関することはもとより、学生としての心構えや学生生活のあり方など、学生生活全般についてのアドバイスや指導を行う。

なお、年間履修登録単位数は 45 単位を上限とし、学生の学習時間を確保し、以て学修の質の向上を図る。

また、本学科のディプロマ・ポリシーである「科学する心を持った道義心の強い技術者の育成」を目指し、全学生に『卒業研究』を課し、併せて学修成果の保証を行うため、GPA 制を導入する。

## 3．卒業要件

卒業要件は、学科・学系で定めた必修科目又は選択必修科目の単位を修得した上で、全学共通科目及び学科科目から合計 124 単位以上修得することである。

区分毎の必要単位数は次頁の通りである。

総合理工学科の卒業要件

科目区分等		卒業に必要な単位数				
		必修	選択 必修	選 択	合 計	
全学共通 科目	自立と体験		2 単位	15 単位以上	32 単位	
	情報リテラシー科目		4 単位			
	健康・スポーツ科学科目		3 単位			
	外国語科目（英語）		8 単位			
	選択科目					
学科科目	学科共通 科目	導入前科目		左記及び所 属学系以外 の科目の単 位から 上限 28 単位	92 単位	
		基礎科学科目	4 単位			
		プロジェクト科目	6 単位			
		理工実験実習	4 単位			
		キャリア教育科目	2 単位			
	理学領域 科目	物理学系科目		12 単位		左記を含む 所属学系科 目の単位を 64 単位 以上
		生命科学・化学系科目		36 単位		
	工学領域 科目	機械工学系科目		36 単位		
		電気電子工学系科目		6 単位		
		建築学系科目		15 単位		
		環境・生態学系科目		23 単位		
卒業研究科目		8 単位				
卒業要件単位		41 単位	83 単位	124 単位		

4. 履修モデル

総合理工学科では、人材養成の目的や学問的専門性に沿った履修モデルを、理学系学問領域に2分野（物理学系、生命科学・化学系）、工学系学問領域に4分野（機械工学系、電気電子工学系、建築学系、環境・生態学系）設けている。各分野一例を以下に示す。

- 履修モデル（物理学系）：物理に関する分野を総合的に志向するモデル
- 履修モデル（生命科学・化学系）：生命科学分野を志向するモデル
- 履修モデル（機械工学系）：環境やエネルギー関連分野を志向するモデル
- 履修モデル（電気電子工学系）：電気電子工学分野を総合的に志向するモデル
- 履修モデル（建築学系）：計画・デザイン・環境分野を志向するモデル
- 履修モデル（環境・生態学系）：環境情報処理技術を志向するモデル

また、各学系の履修モデル表は【資料4】の通りである。

## ・免許・資格等

本学科を卒業することで取得可能又は受験資格を得られる資格は以下の通りである。

### (卒業時に取得可能な資格)

資格の種類・名称	資格の種類	対象学系
中学校教諭第1種免許状(数学・理科)	国家資格	全学系
高等学校教諭第1種免許状(数学・理科・工業)	国家資格	
毒物劇物取扱責任者	国家資格	生命科学・化学系

### (卒業時に受験資格を得られる資格)

資格の種類・名称	資格の種類	対象学系
危険物取扱者(甲種)	国家資格	生命科学・化学系 環境・生態学系
バイオ技術者認定試験	民間資格	生命科学・化学系
電気工事施工管理技士	国家資格	電気電子工学系
二級建築士	国家資格	建築学系
木造建築士	国家資格	

### (卒業後に一定の実務経験を経ることで、取得可能又は受験資格を得られる資格)

資格の種類・名称	資格の種類	対象学系
電気主任技術者	国家資格	電気電子工学系
一級建築士	国家資格	建築学系
1級建築施工管理技士	国家資格	
2級建築施工管理技士	国家資格	
1級造園施工管理技士	国家資格	
2級造園施工管理技士	国家資格	

また、以下の資格については、在学時又は卒業後の資格取得を推奨し、学習支援を行う。

### (資格の取得を推奨する資格)

資格の種類・名称	資格の種類	対象学系
放射線取扱主任者	国家資格	物理学系
C A T I A 認定技術者	民間資格	機械工学系
機械設計技術者	民間資格	
電気工事士	国家資格	電気電子工学系
電気通信主任技術者	国家資格	
電気通信の工事担任者	国家資格	
技術士(環境部門)	国家資格	環境・生態学系
環境計量士	国家資格	
公害防止管理者	国家資格	
危険物取扱者(乙種)	国家資格	

## ・施設・設備等の整備計画

### 1．校地、運動場の整備計画

理工学部は昭和 39 年の開設以来、本学科を設置する日野キャンパスにおいて教育研究活動を行ってきた。日野キャンパスは 286,769,455 m<sup>2</sup>の敷地面積をもち、内 74,314 m<sup>2</sup>が運動場用地として利用されている。校地には教育研究に必要な講義棟や実験・研究棟の他、野球場、テニスコート、総合体育館が運動施設として整備されている。

また、平成 16 年から平成 19 年の間にキャンパス再開発を行いほぼバリアフリー化を実現し、学生が快適なキャンパスライフを送るために必要な空間や施設の充実を図ってきた。

改組後においても既に整備されている施設等をこれまでと同様に有効に活用していく。

### 2．校舎等施設の整備計画

本学科は、既存の物理学科、化学科、機械システム工学科、電気電子システム工学科、建築学科、環境システム学科を発展的に融合させた学科であり、教育研究に必要な施設・設備については、既存学科において十分整備されていることから、改組後もそれらを有効に活用し教育研究活動を行うこと原則とする。

講義室・演習室については、全学で共有する施設としてマルチメディア機器が整備された 75 室を含め既に 251 室が整備され、講義又は演習の授業を行う上で十分対応可能である。その他コンピュータ演習室として 19 室( Windows/15 室 826 台・Macintosh/2 室 78 台・UNIX/2 室 128 台 ) が整備されている。

また、実験室・研究室については、29 号館又は 30 号館に既存学科において整備された理工学系専門実験室が分野ごとに整備され、また、実験実習に必要な機器についても既にそれぞれの実験室に整備されている設備を活用することで実験実習科目には十分な対応が可能である。

なお、全ての専任教員には、個室の研究室が用意され、研究環境の面も十分である。

### 3．図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の資料についても、前述の通り既存学科において既に整備されていることから、それらを教育研究活動に有効に活用する。

日野校図書館には、本学科に関連する自然科学、技術・工学、建設工学・土木工学分野の約 9 万冊を含む 62 万冊の図書と、約 8 千種の学術雑誌図書が既に所蔵され、教育研究活動に利用されている。

なお、日野校図書館は平成 19 年度に新館を設置し、6,813 m<sup>2</sup>の閲覧スペースとレファレンススペースや自習スペースを含めて 1,180 席の座席を確保するとともに、情報機能を強化するため図書館内に 114 台のパソコンを整備し、データベースの利用やインターネット検索、電子ジャーナルの利用を可能にした。また、文献検索システムとしては OPAC を完備し、さらに、NACSIS と連動しており、本学図書館に蔵書がない場合はどの大学の図書館に所蔵されているかを検索の上、大学図書館間の相互貸借により閲覧することが可能になっている。

本学科に関する既存の主な学術雑誌・データベース・電子ジャーナルは次の通りである。

理学系学問領域

領域系	図書分類	主な図書資料例	
理学系学問領域	物理学系	データベース	Japanese Journal of Applied Physics 等
		和雑誌	天文月報 等
		洋雑誌	Physical Review, Physical Review Letters, Applied Physics Letters, Journal of Chemical Physics 等
	生命科学化学系	データベース	SciFinder 等
		和雑誌	蛋白質核酸酵素、有機合成化学協会誌、生化学、生物物理、ファルマシア、化学と工業、ぶんせき、現代化学、化学、化学と生物、化学と教育、表面科学、光化学、超音波テクノ 等
		洋雑誌	Nature, Science, Cell, Molecular Cell, Genes Dev., EMBO J., Mol. Cell. Biol., Eukaryotic Cell, J. Biol. Chem., J. Mol. Cat. B: Enzyme, J. Phys. Chem. A, B & C, Analytical Chem., Inorganic Chem., Envir. Sci. & Tech., J. Am. Chem. Soc., J. Org. Chem., Org. Lett., Chemical Reviews, Synthesis, Synlett., Angew. Chem. Int. Ed., J. Photochem. Photobiol. C: Photochemistry Reviews, Electrochemistry, J. Electrochem. Soc., Ultrasonics-Sonochemistry, C&EN 等
		和雑誌	環境科学会誌、都市計画学会誌、環境情報科学、大気環境学会誌、天気、水環境学会誌、水処理生物学会誌、廃棄物資源循環学会誌、分析化学、炭素材料学会誌 等
		洋雑誌	Environmental Planning A&G, Environmental Impact Assessment Review, J. Geophysical Research Atmosphere, J. Applied Meteorology and Climatology, Water Research, Microbial Ecology, Waste Management, Transactions of the Materials Research Society of Japan 等

工学系学問領域

領域学系	図書分類	主な図書資料例	
工学領域	機械工学系	データベース	CiNii, JDreamII, MAGAZINPLUS, LexisNexis Academic, OCLC FirstSearch, ProQuest Academic Research Library 等
		和雑誌	日本機械学会論文集 A 編, 日本機械学会論文集 B 編, 日本機械学会論文集 C 編, 自動車技術, 機械の研究, 油空圧技術 等
		洋雑誌	Transactions of ASME Journal of Applied Mechanics, Transactions of ASME Journal of Biomechanical Engineering, Transactions of ASME Journal of Energy Resources Tech., Transactions of ASME Journal of Engineering for Gas Turbines, Transactions of ASME Journal of Fluid Engineering, Transactions of ASME Journal of Heat Transfer, Transactions of ASME Journal of Solar Energy, Transactions of ASME Journal of Tribology, Transactions of ASME Journal of Turbomachinery 等
	電気電子工学系	データベース	Web of Knowledge (特許まですべてをカバーしている), CiNii, J-Stage, IEE Xplore, Science Direct, Wiley Inter Science, SCIRUS 等
		和雑誌	電気学会誌・論文誌、計測自動制御学会誌・論文集、電子情報通信学会誌・論文集、低温工学、情報処理学会誌・論文集、情報処理学会誌・論文集 等
		洋雑誌	IEEE Journals, IEEE Transactions, IEE Proceedings, IOP Journals, ACM Journals and Transactions, AIP Journals 等
	建築学系	データベース	MAGAZINPLUS, Jdream, CiNii, OCLCFirstSearch, LexisNexis Academic 等
		和雑誌	建築学会誌、a+u、Casa Brutus、建築知識、コンフォルト、室内、新建築住宅特集、新建築、セメントコンクリート論文集、日経アーキテクチャ、日経デザイン、日経ホームビルダー 等
		洋雑誌	Abitare, ACI Structural Journal, Architecture Record, Casabella, Concrete International, EL Croquis, Geotechnique, PCI Journal 等
	環境生態学系	データベース	JDream11, ProQuest ARL, OCLCFirstSearch, LexisNexis Academic 等
		和雑誌	環境科学会誌、都市計画学会誌、環境情報科学、大気環境学会誌、天気、水環境学会誌、水処理生物学会誌、廃棄物資源循環学会誌、分析化学、炭素材料学会誌 等
		洋雑誌	Environmental Planning A&G, Environmental Impact Assessment Review, J. Geophysical Research Atmosphere, J. Applied Meteorology and Climatology, Water Research, Microbial Ecology, Waste Management, Transactions of the Materials Research Society of Japan 等

## ・入学者選抜の概要

### 1. アドミッション・ポリシー

総合理工学科の入学者選抜は、本学の教育目標及び理工学部教育目標である「科学する心を持った道義心の強い技術者の育成」を達成するため、アドミッション・ポリシーである「理工系分野へ興味を抱き、学ぶ意欲が強く、自ら実践できる人」に基づき、本学での勉学において向上心を発揮できる者を次項に示す方法により選抜する。

なお、募集の際は全ての試験区分において、人材養成の目的に鑑み、学系単位で募集を行うとともに、一般入試においては、入学時に学系を特定しない「フレキシブル枠」を設けて募集を行う。

### 2. 選抜方法と内容

#### (1) 推薦入学試験

推薦入学試験は本学の専願者（明星高等学校特別推薦入試を除く）に対して、公募制推薦入試、指定校制推薦入試、明星高等学校特別推薦入試、卒業生子女推薦入試、自己推薦入試の区分で下表の通り出願資格及び選考方法を定めて実施する。

推薦入学試験の募集定員の合計は入学定員の5割とする。

試験区分	選考方法等	出願資格等
公募制推薦試験	面接試験 小論文又は学力テスト 評定平均値	高等学校を平成22年3月卒業見込み又は平成21年3月卒業の者で、学校長の推薦がある者
指定校制推薦入試	面接試験	本学の指定する高等学校を平成22年3月に卒業見込みで、学校長の推薦がある者
明星高等学校 特別推薦試験	面接試験	明星高等学校を平成22年3月に卒業見込みで、学校長の推薦がある者
卒業生子女推薦入試	面接試験 小論文 評定平均値	父母いずれかが本学の卒業生で、高等学校を平成22年3月に卒業見込みの者
自己推薦入試	面接試験 提出課題	大学入学資格（見込みを含む）を有する者

#### (2) A O入試

A O入試は本学の専願者に対して、次の方法で実施する。試験は8月から12月の間に4回実施し、募集定員の合計は入学定員の2割とする。

出願資格：大学入学資格（見込みを含む）を有し、本学のアドミッション・ポリシーを理解している者。

選抜方法：事前に提出されたエントリーシートに基づく面接試験及び提出課題の評価によって行う。

(3) 一般系入学試験

一般系入学試験は大学入学資格（見込みを含む）を有する者に対し、一般入学試験及び大学入試センター利用入学試験を、次の通り実施し、募集定員の合計は入学定員の3割とする。

一般入学試験

一般入学試験は実施時期を前期（1月）・中期（2月）・後期（3月）とし、学力試験3科目の成績で選抜するA方式、2科目の成績で選抜するB方式、学力試験とセンター試験の成績を合わせて選抜するBC方式に区分し、下表の通り試験区分毎に試験科目を定めて実施する。

試験区分	試験科目					センター試験
前期 A方式	左記～の内3科目選択	国語総合(古文・漢文を除く)	英語・リーディング	数学・A 又は 数学・A、 数学・B から1科目選択	物理 化学 生物 日本史B 世界史B 政治・経済 から1科目選択	理科(理科総合A、科総合B、物理、化学、生物、地学) 又は 数学(数学、数学・A、数学、数学・B) 又は 地理歴史(日本史A、日本史B、世界史A、世界史B、地理A、地理B) 又は 公民(現代社会、政治・経済、倫理) から1科目選択
前期 B方式	左記～の内2科目選択			から1科目選択		
中期 B方式	左記～の内2科目選択			物理 化学 生物 から1科目選択		
中期 BC方式	左記～の内2科目選択及びセンター試験1科目選択			数学・A		
後期 B方式	左記～の内2科目選択					
後期 BC方式	左記～の内2科目選択及びセンター試験1科目選択					

大学入試センター利用入学試験

センター利用入試は、以下の3教科を利用し、前期・中期（2月）・後期（3月）の3回実施する。

- ・「外国語（英語）」
- ・「数学（数学、数学・A、数学、数学・B）」
- ・「理科（理科総合A、科総合B、物理、化学、生物、地学）」

前期入試は上記3教科全ての成績により選抜し、中期及び後期は、このうち2教科を選択しその成績により選抜する。

## ・管理運営の考え方

本学では、教学に関する管理運営を適切に行うため「明星大学学則」及び「明星大学通信教育部学則」において、次の会議体等の設置を定め、大学運営に関する審議等を行っている。

### 1．大学評議会（学則第 8 条及び 9 条）

大学評議会は、大学評議会運営細則に則り、学長が招集し、全学的重要事項を審議する。構成員及び審議事項は次の通りである。

構成員：学長・学部長・大学院研究科長・通信教育課程長・一般教育委員長・  
図書館長・各学部所属教授 2 名及び一般教育委員会所属教授各 1 名

審議事項：(1)教育、研究に関する全学的重要事項

(2)学則その他重要な規則に関する全学的需要事項

(3)学生の厚生補導及びその身分の基準に関する事項

(4)その他必要と認められる事項

### 2．学部教授会（学則第 10 条及び 11 条）

学部教授会は、教授会運営細則に則り、学部長が招集し、当該学部の教育研究、学籍、学生補導、教員人事等に関する事項を審議する。

また、教授会を円滑に運営するための教授会運営委員会の他、必要に応じて各種委員会（教務・入試・学生生活・就職指導・教職課程・規程・自己点検評価・FD等）を置くことができるとしている。

なお、教員の採用・昇任に関わる事項については、人事選考委員会を置かなければならないこととしている。

学部教授会の構成員及び審議事項は以下の通りである。

構成員：当該学部に所属する教授・准教授・講師・助教

ただし、教員の人事に関する審議に当たっては、教授のみを構成員とする。

審議事項：(1)教育及び研究に関する事項

(2)教育課程、授業及び試験に関する事項

(3)入学・卒業等に関する事項

(4)教職課程に関する事項

(5)休学、退学に関する事項

(6)学生補導、賞罰に関する事項

(7)学則及び教則に関する事項

(8)教員の人事に関する事項

(9)学部長候補の選考に関する事項

(10)当該学部の教育研究予算に関する事項

(11)その他教授会が必要と認める事項

### 3．通信教育部代表委員会（学則第 12 条及び通信教育部学則第 8 条）

代表委員会は、教授会が必要と認めるとき、教授会構成員の一部を持って組織することが

できる委員会として設けられている。また、代表委員会の議決を持って教授会の議決とすることができることとしている。

通信教育代表委員会は、通信教育代表委員会細則に則り、通信教育課程長が招集し、通信教育課程に関する教育研究、学籍、学生補導、教員人事等に関する事項を審議する。

#### 4．学部長会（学則 14 条）

学部長会は、学長が招集し、大学全体の運営に関する事項を連絡調整する。構成員は次の通りである。

構成員：学長・副学長・学部長・大学院研究科長・通信教育課程長・  
一般教育委員長・学生部長・事務局長・その他学長が必要と認めた教職員

#### 5．諮問委員会（学則 14 条の 2）

諮問委員会は、学長が必要に応じて設置できる委員会として学則に規定されている。諮問委員会は恒常委員会と臨時委員会に区分され、恒常委員会の構成員は原則として、学部を代表する教員、学長が指名する副学長及び学長が必要と認めた者で組織される。臨時委員会の構成員は委員会を組織する際、学長が指名する。恒常委員会、臨時委員会とも委員長は学長が指名し、委員長が委員会を招集し、議長となる。

委員会は諮問事項に対して定められた期日までに学長に答申し、当該答申は必要に応じて学部教授会、研究科委員会又は大学評議会において協議される。

現在設置されている恒常委員会は以下の通りである。

- (1)大学規程整備委員会
- (2)全学教務委員会
- (3)自己点検・評価基本方針策定委員会
- (4)全学自己点検・評価実施委員会
- (5)全学入試運営委員会
- (6)明星大学全学ウェブサイト管理委員会
- (7)明星大学キャンパス開発委員会
- (8)全学学生生活委員会
- (9)キャンパス・ハラスメント防止・対策委員会
- (10)明星大学個人情報運営管理委員会
- (11)海外研修等危機管理委員会
- (12)明星大学研究費不正使用防止・対策委員会
- (13)全学FD委員会
- (14)全学就職委員会

以上の通り、学則及び各会議体の運営細則に則り、大学評議会や学部教授会その他の会議体で審議や協議等を行い、それに従った大学運営を行うことにより、学部等の独自性を担保しつつも大学全体を円滑かつ適切に管理運営する体制が整備されている。

また、事務組織としては教務企画課や学生課、就職課等の全学を対象として業務を行う部署の他、学部事務室を学部毎に設置し、学部長秘書業務、教授会運営事務、教員の教育・研究活

動支援、所属学生の学習・生活面の支援・指導など当該学部等を円滑に運営・支援する体制を整備している。

## ・自己点検・評価

### 1．自己点検・評価の取り組み

本学における自己点検・評価の取り組みは、平成8年度より学部学科単位で恒常的に行ってきたが、全学横断的な事項へも対応するため、平成12年度に全学的な自己点検・評価委員会を設置し、大学全体、学部・研究科単位及び通信教育部での点検・評価活動を行い、その結果については逐次報告書を作成し刊行してきた。

平成15年度の学校教育法の一部改正により、全ての大学に対して認証評価機関による評価（以下「認証評価」という。）が義務付けられたことから、これまでの本学の自己点検・評価の活動をさらに組織的、継続的に実施する体制を整備するために、「明星大学自己点検・評価規程」及び「明星大学自己点検・評価委員会細則」（平成21年4月一部改訂）を各教授会等の議を経て平成15年9月に制定した。

### 2．自己点検・評価の実施体制

前述の規程に則り、自己点検・評価基本方針策定委員会（以下「基本委員会」）、全学自己点検・評価実施委員会（以下「全学委員会」）、部局別自己点検・評価委員会（以下「部局別委員会」）を組織し、自己点検・評価の実施体制を整備した。

また、規程の制定を機に、部局が独自に定めていた点検・評価項目を、後述する認証評価機関の定める項目に全学的に統一した。

各委員会の構成員と役割は、それぞれ以下の通りである。

#### （1）基本委員会

構成員：学長が指名する副学長・学生部長・事務局長・学長が指名する者若干人

- 役割：(1)自己点検・評価の基本方針の策定  
(2)自己点検・評価項目に基づく細目の設定  
(3)評価基準の設定  
(4)その他自己点検・評価に関する基本事項の策定

#### （2）全学委員会

構成員：副学長・学部長及び学部長指名の教員若干人・研究科長及び研究科長指名の教員若干人・一般教育委員会委員長及び委員長指名の教員若干人・学生部長・事務局長及び事務局長指名の職員若干人・学長が指名する教職員若干人

- 役割：(1)全学的自己点検・評価の実施  
(2)部局別自己点検・評価結果の検証  
(3)自己点検・評価報告書の編集

#### （3）部局別委員会

構成員：各部局の長・各部局の長が指名する教職員（3～5人）

- 役割：(1)各部局別自己点検・評価の実施  
(2)自己点検・評価の全学委員会への報告

部局の単位：学部・大学院研究科・一般教育・通信教育部・図書館・附属研究機関・学生生活・事務局

### 3．認証評価（学校教育法第109条2項への対応）

認証評価については、平成15年度に全学的な自己点検・評価に係る規程と実施体制が整ったことを踏まえて、平成17年度に財団法人大学基準協会の認証評価を受けることが、大学評議会の議を経て、理事会で承認された。

同協会の定める点検・評価項目（理念・目的・教育目標、教育研究組織、教育研究の内容・方法、学生の受入、教育研究のための人的体制、研究活動と環境、施設・設備等、図書館、社会貢献、学生生活、管理運営、財務、事務組織、自己点検・評価、情報公開・説明責任）について、自己点検・評価に係る各委員会を中心に全学的（通信教育部を含む）に作業を行い、平成17年3月に『明星大学自己点検・評価報告書』を作成した。

同報告書をもって、当初の計画通り財団法人大学基準協会の認証評価を申請し、平成18年3月に同協会の定める「大学基準」に適合していると認定され、正会員として承認された。（認証期間：平成18年4月～平成23年3月3月）

この結果については、『明星大学自己点検・評価報告書』の全文及び同協会からの助言・勧告事項を収録したCDを作成し、全国の関係機関に配付すると共に、本学のホームページ上に掲載し、広く社会一般に公開している。

なお、現在、法令で定める期間（7年間）を待たずに、平成22年度に再度認証評価を受けるための準備を進めている。

### 4．改善活動への取り組み

平成17年度の認証評価における助言・勧告事項については、直ちに各部局にフィードバックし、「（財）大学基準協会による加盟判定審査結果及び認証評価結果における明星大学への指摘事項に対応する改善計画書」を作成し、大学改革・改善活動に取り組んでいる。

一方、点検・評価活動をさらに効率的に行い改善活動を充実させるため、認証評価とは別に本学独自の取り組みとして、学部学科等の各部局が自主的に本学の教育目標を具現化することを目的に、平成21年度から改善のための戦略マップを策定し、BSC (Balanced Score Card) を活用した自己改善のための方策を導入した。この方策は、MI21 プロジェクト (Meisei Innovation for 21st Century) と命名され、このプロジェクトを通して全学的に教育研究、管理運営等の改善活動を行うことにした。

具体的には、本学の教育目標を達成するための「全学戦略マップ」を作成し、全学に共通する教育目標に関する指針を定め、各学部学科等の単位が全学的方針に基づき、「部局別戦略マップ及びBSC」を作成する。各部局はそれを活用して年度単位で個々の取り組みについて点検・評価・改善活動を行う所謂PDCAサイクルを確立することで改善活動を充実させる試みである。

## ・情報の提供

在学生やその保護者、受験生の他、広く一般社会へ情報を提供するため、本学では各種刊行物に加え、WEB環境を活用した情報発信も積極的に活用している。

大学全体及び学部・学科における教育研究上の目的（人材養成の目的を含む）・目標・計画、大学への入学や学習機会に関する情報、学生の知識・能力の修得水準に関する情報（成績評価方針・基準）、卒業生の進路状況に関する情報、研究内容と成果の概要・社会活動及び財務状況に関する情報等について、在学生その他、広く社会に対し、積極的に情報を提供するよう努めている。

特に近年では、WEB環境が加速度的に整備されたことから、大学側からの一方向の情報発信だけではなく、本学ホームページを通じた双方向的な環境整備も行い、常に情報を受ける側からの意見・要望等も重視しながら、情報提供内容の充実を図っている。

これら情報発信に係る積極的な対応は、教育研究機関としての説明責任を果たす上でも重要な役割であるとともに、教育研究成果の公表による社会貢献の一環としても位置づけ、社会からの付託に応え、教育研究機関としての信頼されるための証であると考えている。

今後は、HPの充実を図り学則を初めとした各種規程や基本計画書や設置の趣旨、履行状況報告書など学部学科等の設置に関する情報を公開・提供できる体制を整備する。

大学としての主な情報提供媒体及び項目は、以下の通りである。

### 1．大学案内

教育研究上の目的（人材養成の目的を含む）・目標・計画、大学への入学や学習機会、学生生活に関する情報、大学の施設・設備に関する情報、卒業生の進路状況に関する情報、大学での研究課題等

### 2．教則（講義要綱等を含む）

教育研究上の目的（人材養成の目的を含む）・目標・計画、授業計画（シラバス）、学生の知識・能力の修得水準（成績評価方針・基準）等に関する情報、学則等

### 3．入学試験要項

大学への入学や学習機会に関する情報、学納金、等

### 4．大学・法人ホームページ(大学：<http://www.meisei-u.ac.jp>)

教育研究上の目的（人材養成の目的を含む）・目標・計画、授業計画（シラバス）、大学への入学や学習機会に関する情報、学生の知識・能力の修得水準に関する情報（成績評価方針・基準）、各教員の研究に関する情報、卒業生の進路状況に関する情報、大学での研究課題に関する情報等、自己点検・評価報告書

### 5．自己点検・評価報告書

本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動及び社会貢献への活動等の状況について、全学又は部局単位で点検・評価を行った情報等（認証評価機関の定める項目に従

った大学運営全般に関する情報)

その他、本学を設置している学校法人明星学苑のホームページ上(<http://www.meisei.ac.jp>)で、事業計画書や事業報告書の公開を通して財務状況(財産目録・貸借対照表・資金収支計算書・消費収支計算書)や学生情報(収容定員・在籍者数等)に関する情報を提供している。

### ・授業内容方法の改善を図るための組織的な取り組み

本学では、教員の教育に関する資質を向上させ、授業内容・方法を改善するために、平成 19 年度より学長の諮問委員会として「全学 F D 委員会」を設け、全学的 F D 活動の実施や部局別 F D 活動の指針となる全学的基本方針を策定するなど、全学をあげて組織的な取り組みを行っている。また、平成 21 年度に整備した「明星大学ファカルティ・デベロップメントに関する規程」では、「全学 F D 委員会」及び「部局別 F D 委員会」の役割を明確にした。「全学 F D 委員会」では、全学的な F D 活動のための基本方針の策定、全学的な F D 研修の企画・実施・評価、新任教員に対する研修、授業に関する学生アンケート(授業評価)に関する企画・活用方法の検討、部局別 F D 研修への助言等を行い、「部局別 F D 委員会」は学部・研究科・一般教育委員会・通信教育課程の単位で設置され、部局で行う F D 研修の企画・実施評価、学生による授業アンケート(授業評価)の部局における活用方法の検討等を行うこととし、より組織的かつ継続的に F D 活動を実施できるよう体制を整備している。

なお、平成 15 年度から全学的に実施している「学生による授業アンケート(授業評価)」結果の活用については、各教員へフィードバックするとともに、それぞれの部局単位で教員相互に活用して部局全体の授業改善の施策を講じるようにしている。

# 資料一覽

資料1 教育理念・課程の概念図

資料2 教育課程一覽（学科科目）

資料3 専任教員職位別年齢構成（学位保有状況）

学校法人明星学苑定年規程

資料4 履修モデル

4 - 1 履修モデル（物理学系）

4 - 2 履修モデル（生命科学・化学系）

4 - 3 履修モデル（機械工学系）

4 - 4 履修モデル（電気電子工学系）

4 - 5 履修モデル（建築学系）

4 - 6 履修モデル（環境・生態学系）

# 理工学部総合理工学科の教育理念・課程の概念図

## ディプロマポリシー

科学する心を持った道義心の強い技術者の育成を目指すため、  
GPA制を導入し、学習成果の保証を行う。

## 卒業研究

これまで受講した学系専門教育の成果を十分に活用できるよう、  
卒業研究を通じて問題発見・解決能力を育成する。

## 学系科目

理学領域  
応用

物理学系  
生命科学・化学系

工学領域  
応用

機械工学系  
電気電子工学系  
建築学系  
環境・生態学系

理学領域  
基礎

物理学系  
生命科学・化学系

工学領域  
基礎

機械工学系  
電気電子工学系  
建築学系  
環境・生態学系

基礎的知識・技能教育

## 学科共通科目

プロジェクト

・技術者の生き方と安全管理  
・インターンシップ

キャリア教育科目

基礎科学科目  
・情報処理  
・情報処理

プロジェクト

・自立と体験2

プロジェクト

理工実験実習  
理工実験実習

基礎科学科目  
・基礎代数学  
・基礎解析学

導入前科目  
・数学演習  
・物理演習  
・化学演習

## 全学共通科目

幅広い教養を身につけた自立する市民の育成

歴史と文化を知り、創る  
日本事情、歴史と文化等

心と体の健康管理の教育

人間を考える

健康・スポーツ科学論、哲学、心理学等

社会の営みを理解する  
国際関係論、ボランティア論等

自然と科学を理解する  
地球惑星学、人類と環境等

現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本知識と技能の習得

言葉とコミュニケーション  
情報リテラシー科目  
外国語科目等

自立と体験1

初年次教育

学ぶ意欲に火をつける体験学習を通じて理工学基礎教育を提供する。  
問題を発見し、解決できる実践力を身につける専門教育を提供する。

カリキュラムポリシー

## アドミッションポリシー

理工系分野へ興味を抱き、学ぶ意欲が強く、自ら実践できる人

理工学部総合理工学科  
教育課程一覧(学科科目)

学年	学科共通科目及び卒業研究科目	
	必修	選択
1年	基礎代数学 基礎解析学 プロジェクト プロジェクト 理工実験実習 理工実験実習 自立と体験2	数学演習 物理演習 化学演習 基礎代数学 基礎解析学
2年	プロジェクト プロジェクト 自立と体験2	情報処理 情報処理
3年	プロジェクト プロジェクト	インターンシップ 技術者の生き方と安全管理
4年	卒業研究	ゼミナール ゼミナール

配当年次: 1年後期・2年前期

理学領域				
学年	物理学系		生命科学・化学系	
	基礎	応用	基礎	応用
1年	基礎力学 *		基礎物理化学 *	
	基礎力学 *		基礎無機化学 *	
	基礎電磁気学 *		基礎分析化学 *	
	基礎電磁気学 *		基礎有機化学 *	
	基礎現代物理			
2年	解析力学 *	応用解析	物理化学 *	無機化学
	電磁気学 *	流体と弾性体	分析化学 *	物理化学
	量子力学 *	放射線物理学	有機化学 *	生物分析化学
	応用解析	天文学	無機化学 *	有機化学
	物理実験学	統計科学	生化学 *	有機物性化学
			細胞生物学 *	生化学
			分子生物学 *	化学・生命科学実験 *
			立体化学	化学・生命科学実験 *
3年	解析力学 *	統計熱力学		ナノ・バイオテクノロジー *
	電磁気学 *	統計熱力学		応用無機化学
	量子力学 *	原子核物理学		錯体化学
	確率科学	計算物理学		無機材料化学
	振動と波動	計算物理学		物理化学
	生物物理学	素粒子物理学		量子電算機化学
	天文学	物性物理学		応用物理化学
	天体観測	物性物理学		有機化学
		相対性理論		有機機能化学
		光学		機器分析学
		離散代数		生体物質化学
		量子力学		生体物質化学
		量子エレクトロニクス		生体・触媒化学
		宇宙線		分子生物学
		原子物理学		構造生物学
		天体物理		環境科学
		プラズマ物理		生命工学
		量子力学		高次生命機能学
				化学・生命科学実験 *
				化学・生命科学実験 *
				化学・生命科学特別演習
				化学・生命科学特別演習
4年		宇宙論		
		応用物性		

\* :学系の選択必修科目

工学領域				
学年	機械工学系		電気電子工学系	
	基礎	応用	基礎	応用
1年			電気数学演習 電気数学演習 電気数学演習 電気数学演習 電気電子工学入門	
2年	ものづくり * ものづくり * 機械工学系基礎実験 * 機械工学系基礎実験 * 熱力学 * 熱力学 * 材料の強さ * 材料の強さ * 流れ学 * 流れ学 * 機械力学 * 機械力学 * 機械製図 * 機械加工学 * 3D - CAD * 機械材料学 機械加工学 機械材料学		電気電子実験 * 電気回路学 基礎電磁気学 交流回路学 電磁気学 プログラミング基礎 プログラミング応用 電子回路学 コンピュータ入門 コンピュータ構成論 デジタル制御 エネルギー工学 電気電子実習	情報通信実験 * 電力電子実習 情報通信実習
3年		機械工学系実験 * 機械工学系実験 * 機械設計製図 * 創造工作実習 応用材料力学 応用材料力学 伝熱学 エンジン工学 流体工学 流体工学 制御工学 ロボット工学 設計工学 機械設計製図 設計工学 生産加工概論		電力電子実験 回路解析学 応用電磁気学 電気電子計測 半導体工学 電気法規 電気電子製図 通信法規 電気材料工学 発電工学 電力電子工学 電力工学 電気機器学 高電圧工学 データ処理論 情報経営論 情報通信論 通信網論 信号解析学 電力電子実習 電気電子実習 情報通信実習
4年				電気電子工学総論

\* : 学系の選択必修科目

工学領域				
学年	建築学系		環境・生態学系	
	基礎	応用	基礎	応用
1年	意匠・デッサン実習 *		環境基礎ゼミ *	
	住宅論 *		基礎環境学 *	
	建築基礎力学		基礎環境学 *	
	建築材料実験			
2年	建築設計製図 *		基礎環境化学 *	アジア環境協力事例
	建築設計製図 *		都市環境計画 *	創出科目
	建築計画 *		気象・熱環境学 *	群集生態学
	日本建築史 *		環境微生物学 *	水・土壌汚染制御
	西洋建築史 *		水・土壌環境学 *	応用環境化学
	建築環境学 *		廃棄物学 *	
	建築設備 *		大気環境学 *	
	建築構造力学 *		環境情報処理 *	
	建築材料学 *		地球環境学	
	材料力学		都市環境保全	
	木構造		基礎生態学	
	建築構造実験		環境経済学	
	ランドスケープ		環境化学実験	
	インテリアデザイン			
	人間工学とユニバーサルデザイン			
	建築診断・リフォーム			
	ワークショップ			
3年		都市計画		環境総合科学
		耐震工学		環境アセスメント *
		構造デザイン		環境政策論
		安全防災		環境流体解析
		建築ライフサイクル		大気・熱汚染制御
		建築構造解析 *		都市環境計画演習
		建築施工管理 *		交通環境学
		建築法規 *		都市管理論
		建築構法 *		都市調査論
		建築設計製図		景観生態学
		建築設計製図		環境バイオ・エテクノロジー
		建築計画		環境微生物実験
		建築意匠		水・土壌分析実験
		建築環境学		環境衛生学
		建築設備		廃棄物管理
		鉄筋コンクリート構造		環境分析化学
		建築鉄骨構造		環境機器分析実験
	地盤工学		資源リサイクル学	
	建築マネジメント		環境材料学	
	測量学実習			
4年				

\* : 学系の選択必修科目

理工学部 総合理工学科  
専任教員職位別年齢構成（学位保有状況）

職 位	学 位	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	計
教 授	博 士	人	5人	8人	13人	4人	30人
	修 士	人	1人	人	1人	人	2人
	学 士	人	人	人	人	人	人
	そ の 他	人	人	人	人	人	人
	計	人	6人	8人	14人	4人	32人
准 教 授	博 士	2人	10人	人	人	人	12人
	修 士	人	人	人	3人	1人	4人
	学 士	人	人	1人	人	人	1人
	そ の 他	人	人	人	人	人	人
	計	2人	10人	1人	3人	1人	17人
講 師	博 士	1人	人	人	人	人	1人
	修 士	人	人	2人	人	人	2人
	学 士	人	人	人	人	人	人
	そ の 他	人	人	人	人	人	人
	計	1人	人	2人	人	人	3人
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人
	修 士	人	人	人	人	人	人
	学 士	人	人	人	人	人	人
	そ の 他	人	人	人	人	人	人
	計	人	人	人	人	人	人
合 計	博 士	3人	15人	8人	13人	4人	43人
	修 士	人	1人	2人	4人	1人	8人
	学 士	人	人	1人	人	人	1人
	そ の 他	人	人	人	人	人	人
	計	3人	16人	11人	17人	5人	52人

## ○学校法人明星学苑明星大学定年規程

（昭和49年4月1日  
制 定）

（趣旨）

第1条 明星大学（以下「本学」という。）に勤務する教職員の定年退職は、この規程による。

（定年）

第2条 教職員の定年を次のように定める。

- |               |     |
|---------------|-----|
| (1) 教育職員      | 70歳 |
| (2) 事務職員      | 65歳 |
| (3) 技能職員・厚生職員 | 62歳 |
| (4) 用務職員      | 62歳 |

（退職の日）

第3条 定年退職の日は、定年に達した学年度の末日とする。

（適用除外）

第4条 法人の理事たる教職員の退職については、法人の理事会の決定による。

（特別任用者の場合）

第5条 学校、官公署、会社等の定年退職者又は定年退職に準ずる者若しくは特殊の勤務条件による者が、本学の教職員に採用された場合は特別任用とし、その定年は第2条の規定によるものとする。

（特別任用者の委嘱）

第6条 理事長は、定年に達した者のうち、次の各号の1に該当する者について特別任用者として委嘱することができる。

- (1) 本学創立時に就任した教職員で定年に達した者
  - (2) その他の教職員で教育、研究及び業務上必要とされる者
- 2 理事会の議を経て学年度ごとにこれを委嘱し、年度ごとに更新することができる。

（改廃）

第7条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長が行う。

附 則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。ただし、昭和49年3月31日現在本学に勤務する教職員については、この規程を昭和52年4月1日から施行する。

# 理工学部総合理工学科 履修モデル

## 履修モデル (物理学系)

		1年次	単位数	2年次	単位数	3年次	単位数	4年次	単位数	区分別 単位数
全学共通科目	キャリア教育	自立と体験1	2							
	情報処理	情報リテラシーa	2							
		情報リテラシーb	2							
	外国語	外国語(英語)1A	1 *	外国語(英語)3A	1 *					
		外国語(英語)1B	1 *	外国語(英語)3B	1 *					
		外国語(英語)2A	1 *	外国語(英語)4A	1 *					
		外国語(英語)2B	1 *	外国語(英語)4B	1 *					
体育	健康・スポーツ科学論	2	健康・スポーツ演習2	1						
	健康・スポーツ演習1	1								
選択	物理学1	2	その他の選択科目から6単位							
	物理学2	2								
	統計学1	2								
	統計学2	2								
小計		21		7		4		0	32	
学科共通科目	導入前 科目	数学演習	1							
		物理学演習	1							
	基礎科学 科目	基礎代数学	2	情報処理	2					
		基礎代数学	2							
		基礎解析学	2							
		基礎解析学	2							
プロジェクト	プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1				
	プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1				
理工実験 実習	理工実験実習	2								
	理工実験実習	2								
キャリア教育			自立と体験	2						
学科科目	物理学系 基礎	基礎力学	2 *	解析力学	2 *					
		基礎力学	2 *	電磁気学	2 *					
		基礎現代物理	2	量子力学	2 *					
		基礎電磁気学	2 *	応用解析	2					
		基礎電磁気学	2 *	解析力学	2 *					
	物理学系 応用			電磁気学	2 *					
				量子力学	2 *					
				生物物理学	2					
				天文学	2					
				天体観測	2					
				流体と弾性体	2	統計熱力学	2 *			
				放射線物理学	2	統計熱力学	2 *			
				統計科学	2	素粒子物理学	2			
						量子力学	2			
				天体物理	2					
				原子核物理学	2					
				物性物理学	2					
				光学	2					
				原子物理学	2					
				計算物理学	2					
				離散代数	2					
小計		26		32		24		0	82	
卒業研究								ゼミナール	1	
								ゼミナール	1	
小計		0		0		0		卒業研究	8	
小計		0		0		0			10	10
単位数総計			47		39		28		10	124

…必修科目

\*…選択必修科目

履修モデル (生命科学・化学系)

		1年次	単位数	2年次	単位数	3年次	単位数	4年次	単位数	区分別 単位数
全学共 通科目	キャリア教育	自立と体験1	2							
	情報処理	情報リテラシーa	2							
		情報リテラシーb	2							
	外国語	外国語(英語)1A	1 *	外国語(英語)3A	1 *					
		外国語(英語)1B	1 *	外国語(英語)3B	1 *					
		外国語(英語)2A	1 *	外国語(英語)4A	1 *					
		外国語(英語)2B	1 *	外国語(英語)4B	1 *					
体育	健康・スポーツ科学論	2	健康・スポーツ演習2	1						
	健康・スポーツ演習1	1								
選択	生物学1	2	生物学3	2	法学1	2				
	生物学2	2	生物学4	2	法学2(日本国憲法)	2				
	化学1	2								
小計		19		9		4		0	32	
学 科 共 通 科 目	導入前 科目	化学演習	1							
		数学演習	1							
	基礎科学 科目	基礎解析学	2	情報処理	2					
		基礎代数学	2							
	プロジェクト	プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1			
		プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1			
	理工実験 実習	理工実験実習	2							
		理工実験実習	2							
	キャリア教育			自立と体験2	2					
	学 科 目  理 学 領 域 科 目	生命科学 ・ 化学系 基礎	基礎物理化学	2 *	物理化学	2 *				
基礎無機化学			2 *	分析化学	2 *					
基礎分析化学			2 *	有機化学	2 *					
基礎有機化学			2 *	無機化学	2 *					
基礎現代物理			2	生化学	2 *					
				細胞生物学	2 *					
生命科学 ・ 化学系 応用				生物分析化学	2	ナノ・バイオテクノロジー	2 *			
				有機化学	2	生体物質化学	2			
				生化学	2	生体物質化学	2			
				化学・生命科学実験	3 *	分子生物学	2			
			化学・生命科学実験	3 *	構造生物学	2				
					有機機能化学	2				
					生体・触媒化学	2				
					生命工学	2				
					高次生命機能学	2				
					化学・生命科学実験	3 *				
					化学・生命科学実験	3 *				
小計		22		34		26		0	82	
卒業研究							卒業研究ゼミ	1		
							卒業研究ゼミ	1		
							卒業研究	8		
小計		0		0		0		10	10	
単位数総計		41		43		30		10	124	

…必修科目

\*…選択必修科目

履修モデル (機械工学系)

		1年次	単位数	2年次	単位数	3年次	単位数	4年次	単位数	区分別 単位数	
全学共通科目	キャリア教育	自立と体験1	2								
	情報処理	情報リテラシーa	2								
		情報リテラシーb	2								
	外国語	外国語(英語)1A	1 *	外国語(英語)3A	1 *						
		外国語(英語)1B	1 *	外国語(英語)3B	1 *						
		外国語(英語)2A	1 *	外国語(英語)4A	1 *						
		外国語(英語)2B	1 *	外国語(英語)4B	1 *						
	体育	健康・スポーツ科学論	2	健康・スポーツ演習2	1						
		健康・スポーツ演習1	1								
	選択	物理学1	2			人類と環境	2				
物理学2		2									
統計学1		2									
統計学2		2									
自然科学入門1		2									
自然科学入門2		2									
小計		25		5		2		0	32		
学科共通科目	導入前 科目	数学演習	1								
		物理演習	1								
	基礎科学 科目	基礎代数学	2								
		基礎解析学	2								
		基礎代数学	2								
		基礎解析学	2								
	プロジェクト	プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1				
		プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1				
	理工実験 実習	理工実験実習	2								
		理工実験実習	2								
キャリア教育			自立と体験2	2	インターンシップ 技術者の生き方と安全管理	2 2					
学科科目  工学領域科目	機械 工学系 基礎			ものづくり	2 *						
				ものづくり	2 *						
				機械工学系基礎実験	2 *						
				機械工学系基礎実験	2 *						
				熱力学	2 *						
				熱力学	2 *						
				材料の強さ	2 *						
				材料の強さ	2 *						
				流れ学	2 *						
				流れ学	2 *						
				機械力学	2 *						
				機械力学	2 *						
				機械製図	2 *						
				機械加工学	2 *						
				3D - CAD	2 *						
				機械加工学	2						
				機械材料学	2						
				機械材料学	2						
機械 工学系 応用						機械工学系実験	2 *				
						機械工学系実験	2 *				
						応用材料力学	2				
						応用材料力学	2				
						伝熱学	2				
						エンジン工学	2				
						機械設計製図	2 *				
						機械設計製図	2				
						設計工学	2				
						設計工学	2				
					生産加工概論	2					
小計		16		40		28		0	84		
卒業研究							卒業研究	8			
小計		0		0		0		8	8		
単位数総計		41		45		30		8	124		

…必修科目

\*…選択必修科目

履修モデル (電気電子工学系)

		1年次	単位数	2年次	単位数	3年次	単位数	4年次	単位数	区分別 単位数
全学共通科目	キャリア教育	自立と体験1	2							
	情報処理	情報リテラシーa	2							
		情報リテラシーb	2							
	外国語	外国語(英語)1A	1 *	外国語(英語)3A	1 *					
		外国語(英語)1B	1 *	外国語(英語)3B	1 *					
		外国語(英語)2A	1 *	外国語(英語)4A	1 *					
		外国語(英語)2B	1 *	外国語(英語)4B	1 *					
体育	健康・スポーツ科学論	2	健康・スポーツ演習2	1						
	健康・スポーツ演習1	1								
選択	基礎数学1	2	外国語、体育を含むその他の選択科目から9単位							
	基礎数学2	2								
	物理学1	2								
	物理学2	2								
小計		21		7		4		0	32	
学科共通科目	導入前 科目	数学演習	1							
		物理演習	1							
	基礎科学 科目	基礎代数学	2	情報処理	2					
		基礎代数学	2	情報処理	2					
		基礎解析学	2							
		基礎解析学	2							
	プロジェクト	プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1			
		プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1			
	理工実験 実習	理工実験実習	2							
		理工実験実習	2							
キャリア教育			自立と体験2	2	技術者の生き方と安全管理 インターンシップ	2 2				
学 科 科 目  工 学 領 域 科 目	電気電子 工学系 基礎	電気数学演習	1	電気回路学	3					
		電気数学演習	1	基礎電磁気学	3					
		電気数学演習	1	交流回路学	3					
		電気数学演習	1	電磁気学	3					
		電気工学入門	2	プログラミング基礎	2					
				プログラミング応用	2					
				電子回路学	2					
				電気電子実験	2 *					
			電気電子実習	1						
	電気電子 工学系 応用			情報通信実験	2 *	電気電子計測	2	電気電子工学総論	2	
					電力電子実験	2 *				
					回路解析学	2				
					応用電磁気学	2				
					半導体工学	2				
					電気電子製図	2				
					通信法規	2				
					電気法規	2				
					電力工学	2				
					電気機器学	2				
				電気電子実習	1					
小計		22		31		27		2	82	
卒業研究							ゼミナール	1		
							ゼミナール	1		
小計		0		0		0	卒業研究	8		
小計		0		0		0		10	10	
単位数総計		43		38		31		12	124	

…必修科目  
\*…選択必修科目

履修モデル (建築学系:計画・デザイン・環境分野)

		1年次	単位数	2年次	単位数	3年次	単位数	4年次	単位数	区分別 単位数
全学共 通科目	キャリア教育	自立と体験1	2							
	情報処理	情報リテラシーa	2							
		情報リテラシーb	2							
	外国語	外国語(英語)1A	1 *	外国語(英語)3A	1 *					
		外国語(英語)1B	1 *	外国語(英語)3B	1 *					
		外国語(英語)2A	1 *	外国語(英語)4A	1 *					
		外国語(英語)2B	1 *	外国語(英語)4B	1 *					
体育	健康・スポーツ科学論	2	健康・スポーツ演習2	1						
	健康・スポーツ演習1	1								
選択	西洋の歴史と文化1	2	美学1	2	人類と環境	2				
	西洋の歴史と文化2	2	美学2	2	人文科学論3	2				
					人文科学論4	2				
小計		17		9		6		0	32	
学科共 通科目	導入前 科目									
	基礎科学 科目	基礎代数学	2	情報処理	2					
		基礎解析学	2	情報処理	2					
	プロジェクト	プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1			
		プロジェクト	1	プロジェクト	1	プロジェクト	1			
理工実験 実習	理工実験実習	2								
	理工実験実習	2								
キャリア教育	自立と体験2	2			技術者の生き方と安全管理	2				
学科科目 工学領 域科目	建築学系 基礎	意匠・デッサン実習	2 *	建築設計製図	2 *					
		住宅論	2 *	建築設計製図	2 *					
		建築基礎力学	2	建築計画	2 *					
		建築材料実験	2	日本建築史	2 *					
				西洋建築史	2 *					
				建築環境学	2 *					
				建築設備	2 *					
				建築構造力学	2 *					
				建築材料学	2 *					
				木構造	2					
				ランドスケープ	2					
				インテリアデザイン	2					
				人間工学とユニバーサルデザイン	2					
							建築構造解析	2 *		
					建築施工管理	2 *				
					建築法規	2 *				
					建築構法	2 *				
					建築設計製図	2				
					建築設計製図	2				
					建築計画	2				
					建築意匠	2				
					建築設備	2				
					建築環境学	2				
					建築マネジメント	2				
					都市計画	2				
					建築ライフサイクル	2				
小計		20		32		30		0	82	
卒業研究							ゼミナール	1		
							ゼミナール	1		
小計		0		0		0	卒業研究	8		
小計		0		0		0		10	10	
単位数総計		37		41		36		10	124	

…必修科目

\*…選択必修科目

履修モデル (環境・生態学系)

		1年次	単位数	2年次	単位数	3年次	単位数	4年次	単位数	区分別 単位数	
全学共通科目	キャリア教育	自立と体験1	2								
	情報処理			情報リテラシーa 情報リテラシーb	2 2						
	外国語			外国語(英語)1A 外国語(英語)1B 外国語(英語)2A 外国語(英語)2B	1 * 1 * 1 * 1 *	外国語(英語)3A 外国語(英語)3B 外国語(英語)4A 外国語(英語)4B	1 * 1 * 1 * 1 *				
	体育			健康・スポーツ科学論 健康・スポーツ演習1 健康・スポーツ演習2	2 1 1						
	選択	統計学1 統計学2 物理学1 化学1 化学2 生物学1	2 2 2 2 2 2	その他の選択科目から2単位							
	小計		14		14		4		0	32	
学科共通科目	導入前 科目										
	基礎科学科 目	基礎代数学 基礎解析学	2 2	情報処理 情報処理	2 2						
	プロジェクト	プロジェクト プロジェクト	1 1	プロジェクト プロジェクト	1 1	プロジェクト プロジェクト	1 1				
	理工実験実 習	理工実験実習 理工実験実習	2 2								
	キャリア教育	自立と体験2	2			インターンシップ	2				
	工学領域 科目	環境・生態 学系 基礎	環境基礎ゼミ 基礎環境学 基礎環境学 基礎生態学	1 * 2 * 2 * 2	基礎環境化学 都市環境計画 気象・熱環境学 環境微生物学 水・土壌環境学 廃棄物学 大気環境学 地球環境学 環境経済学 環境化学実験	2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 * 2 2 2 2 2					
		環境・生態 学系 応用			アジア環境協力事例 創出科目 群集生態学 水・土壌汚染制御 応用環境化学	1 2 2 2 2	環境総合科学 環境アセスメント 景観生態学 環境バイオ・エコテクノロジー 環境微生物実験 水・土壌分析実験 環境衛生学 廃棄物管理 環境分析化学 環境機器実験 環境材料学 資源リサイクル学	2 2 * 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
	小計		19		35		28		0	82	
	卒業研究							ゼミナール ゼミナール 卒業研究	1 1 8		
	小計		0		0		0		10	10	
単位数総計		33		49		32		10	124		

…必修科目

\*…選択必修科目